

# EDUCATION

## 生理学エドゥケーター制度のご案内

教育委員会委員長，群馬大学医学部 鯉淵 典之  
エドゥケーター認定委員会委員長，藤田保健衛生大学医学部 中島 昭

### はじめに

本年3月に開催された第90回東京大会から教育プログラムならびに生理学エドゥケーター制度を開始しました。モデル講義と教育講演からなる教育プログラムには900名を超える先生方にご来聴頂き、大盛況のうちに終了することができました。

貴重なご講義を賜りました講師の先生方、この企画にご理解を頂きました理事長栗原敏先生・大会長石川義弘先生をはじめ多くの先生方のご支援に厚くお礼申し上げます。今後も、学生教育において指導的立場にある会員のみならず、研究を主体として活動している会員の皆様も対象に、優れた生理学教育者を育成・支援するための制度として発展させ、社会的ニーズにも応えて行きたいと存じます。会員の皆様にはご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

### 経緯と目的

日本生理学会が発足して既に90年が過ぎました。この間、本会は研究成果や研究情報を発表・交換する場を提供することにより、生理学研究の発展に重要な役割を担ってきました。一方、本会を取り巻く最近の状況を考えれば、本会には今後果たさねばならない更なる役割があると思われる。30年前を振り返れば、大学のキャンパスで開催されていた学会大会への参加者は、医学部や歯学部の生理学教室に所属する教員・大学院生・研究員が大多数であったように思われます。当時、農学部や理学部を除けば、生理学分野の研究を行い、生理学を主要な科目として学生に講義してい

る大学がそれほど多くなかったことがその理由として挙げられます。現在では、看護・保健系や生命科学系の大学・学部が多数新設され、その数は500校を超えています。加えて、薬学部における臨床薬剤師の養成、理工学系学部における人間工学分野の研究の発展など、多くの大学において生理学教育の重要性が増しています。また、最近の教員募集においては、研究業績だけではなく教育能力を問われるケースも多くなっています。

そこで教育委員会では3年前よりワーキンググループを立ち上げ、生理学教育に関して会員の皆様が必要とされているものは何か、議論を積み重ねてきました。その結果、既に高い評価を頂いているモデル講義と、生理学を体系的に学ぶことができる教育講演から構成される教育プログラムを企画して広く教育情報を提供することとしました。加えて、プログラムを受講された会員を対象に、必要な教育訓練を受けたことを認定するため、生理学エドゥケーター制度を立ち上げることになりました。本制度は、会員皆様の生理学教育に関する資質や努力を学会として認定するだけでなく、将来教育職を希望する若手会員をバックアップすることも目的としています。

### 教育プログラムと生理学エドゥケーター制度の概要

ご自分の研究分野と異なる領域の講義を担当されている方、大学院生やポスドクで教育経験をお持ちでない方に加えて、生理学の講義を基礎から再度勉強されたい方などが教育プログラムの受講対象者になると想定しています。一定数以上の講

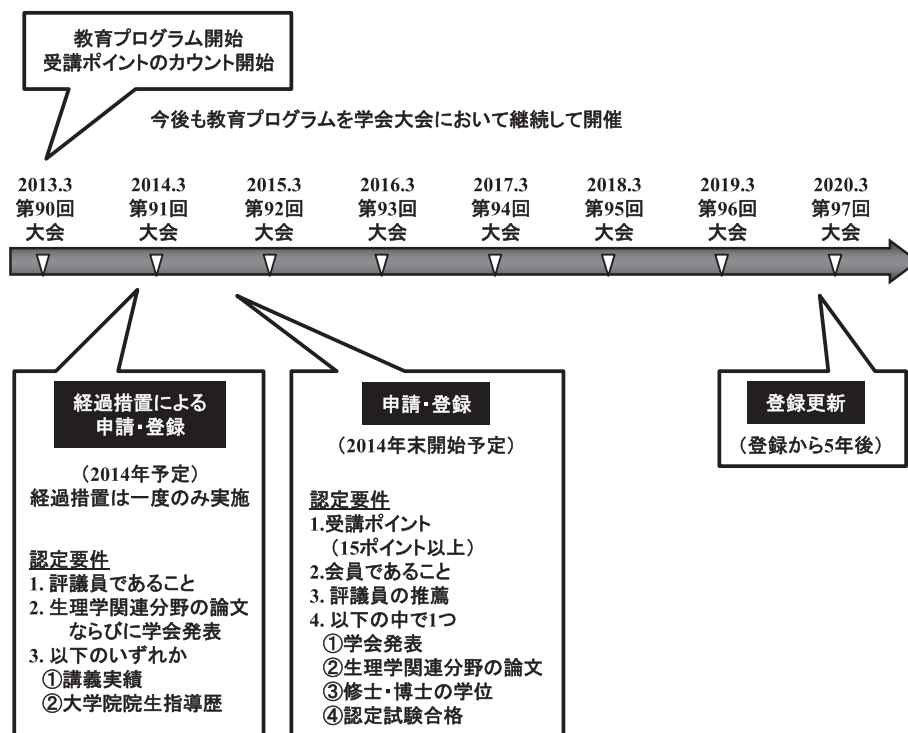


図. 今後のスケジュールならびに認定要件

義を聴講された会員に対して、本制度が定める認定要件を満たしている場合は日本生理学会が「生理学エドゥケーター」として認定いたします。認定期間は5年間ですが、この5年間に教育プログラムを一定数以上受講して頂くことにより再度認定を受けることができます。今後、ホームページなどでも公開していきますが、以下に現時点の概要をご紹介します。

#### <教育プログラム>

講義をする上での教育技法に焦点を当てたモデル講義と、生理学の体系的な知識に関する内容が中心となる教育講演からなります。2013年の第90回東京大会ではモデル講義3演題に加えて、教育講演として神経の基礎1と2、循環器の基礎1と2、呼吸器の基礎、体温・運動生理の基礎、腎臓の基礎、実習の事例、教育理論の基礎、の9演題を企画しました。第91回鹿兒島大会以降も皆様のご要望を伺いながら教育プログラムを企画していく予定です。聴講して頂くことにより、独学では容

易に得ることができない情報を獲得して頂けます。

ポイントの加算については、1講演受講につき1ポイントを加算します。学会大会に参加された非会員の方に対してもポイント加算を行い、受講された年の9月末までに会員となられた場合においては、そのポイントを「生理学エドゥケーター」の認定に使用して頂くことが可能となります。また、ご自分のポイント履歴をホームページ上で確認頂けるシステムを計画しており、夏頃までにはご覧頂くことが可能となるように準備を進めています。

#### <生理学エドゥケーターの認定>

以下の認定要件となります。

- 1) 5年以内に15ポイント以上の受講ポイントを獲得していること
- 2) 会員であること
- 3) 評議員の推薦があること
- 4) 次の①～④のいずれか一つが該当すること

①日本生理学会での発表がある（本大会・地方会で筆頭・共著合わせて3回以上）

②生理学分野の論文がある（筆頭・共著合わせて1報以上）

③修士または博士の学位を有する

④認定試験に合格している（多肢選択問題による認定試験を申請書類提出後に実施、学会大会開催時に予定）

#### ＜生理学エドゥケーター更新＞

以下の更新要件となります。

1) 過去5年間で5ポイント以上の受講ポイントを獲得していること

2) 会員であること

3) 過去5年間で次の①～③のいずれか一つが該当すること

①日本生理学会での発表がある（本大会・地方会で筆頭・共同合わせて3回以上）

②生理学分野の論文がある（筆頭・共著合わせて1報以上）

③上記5ポイントに加え更に5ポイント以上の受講ポイントを獲得している

海外留学・出産育児：空白期間を考慮して更新時期の延長が可能

#### ＜経過措置による生理学エドゥケーター認定＞

一度のみの措置となりますが、教育経験が豊富な評議員を対象にして経過措置により「生理学エドゥケーター」認定を行います。教育プログラム受講が免除されていますが認定基準は厳しくなります。以下の認定要件となります。

1) 評議員であること

2) 生理学分野の論文があること（筆頭・共著合わせて、5報以上）

3) 日本生理学会での発表があること（本大会・地方会で筆頭・共同合わせて、5回以上）

4) 以下の①、②のいずれかを満たすこと

①年間10回以上の生理学関連分野の講義経験がある（常勤・非常勤を問わない）

②5名以上の大学院院生（修士・博士）指導歴がある

#### おわりに

認定制度は平成25年3月の第90回大会に第一歩を踏み出しました。会員の皆様には奮ってご参加頂くと共に、生理学の講義を担当されている非会員の方々にも認定制度が開始されたことをぜひお伝えください。もし正会員になることに抵抗があれば、まずは非会員として学会大会に参加されることを勧められてはいかがでしょう。モデル講義や教育講演を自由に聴講して頂くことが可能です。将来、教壇に立つことを検討されている大学院生やポスドクの皆様も、ぜひ教育プログラムに御参加下さい。

教育プログラムには、長年培われてきた教育技法や知識を後進の方々へ伝えていくという目的もあり、今後、皆様にはご講義をお願いすることがあるかもしれません。教育プログラムならびに認定制度にご理解を頂きご支援を頂ければ幸いに存じます。

「教育のページ」は学部学生、大学院生、ポスドク、教員などを対象に、生理学教育に関する取り組みや意見を紹介することを目的としています。原稿はWeb（日本生理学会ホームページ）上にも掲載されます。皆様のご投稿をお待ちしています。投稿規程は<http://physiology.jp/exec/page/kyoiku-page-kitei/>をご参照ください。